

## 取扱いの趣旨

高血圧症は、生活習慣・食生活・遺伝的素因など様々な要因の組合わせにより発症するものであるため、二次性高血圧症の原因疾患の診断ならびに経過観察に用いられるレニン活性等の算定は、原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】

《令和6年7月31日》

253 経過観察時における二次性高血圧症等がない高血圧症のみに対するコルチゾールの算定について

### ○ 取扱い

経過観察時における二次性高血圧症等がない高血圧症のみに対する次の検査の算定は、原則として認められない。

- |                      |                               |                        |
|----------------------|-------------------------------|------------------------|
| (1) D008「8」レニン活性     | (2) D008「10」レニン定量             | (3) D008「14」コルチゾール     |
| (4) D008「15」アルドステロン  | (5) D008「15」アルドステロン（尿）        | (6) D008「29」カテコールアミン分画 |
| (7) D008「37」カテコールアミン | (8) D008「45」メタネフリン・ノルメタネフリン分画 |                        |

### ○ 取扱いを作成した根拠等

一般的にいう高血圧症は、生活習慣・食生活・遺伝的素因など様々な要因の組合わせにより発症するものを指すことが多く、このような原因が特定できない高血圧症を本態性高血圧症といい、他の疾患が原因となっている場合を二次性高血圧症という。血圧上昇を症状の一つとする疾患は、すべて二次性高血圧の原因となり、その主なものとしては、内分泌疾患、血管疾患、睡眠障害などがあげられる。

上記の各種ホルモン検査は、二次性高血圧症の原因疾患の診断ならびに経過観察に用いられる。

以上のことから、経過観察時における二次性高血圧症等がない高血圧症のみに対する上記検査の算定は原則として認められないと判断した。

## グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）  
レニン活性等を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（経過観察時における二次性高血圧症等がない高血圧症のみに対し算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ  
レニン活性等が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

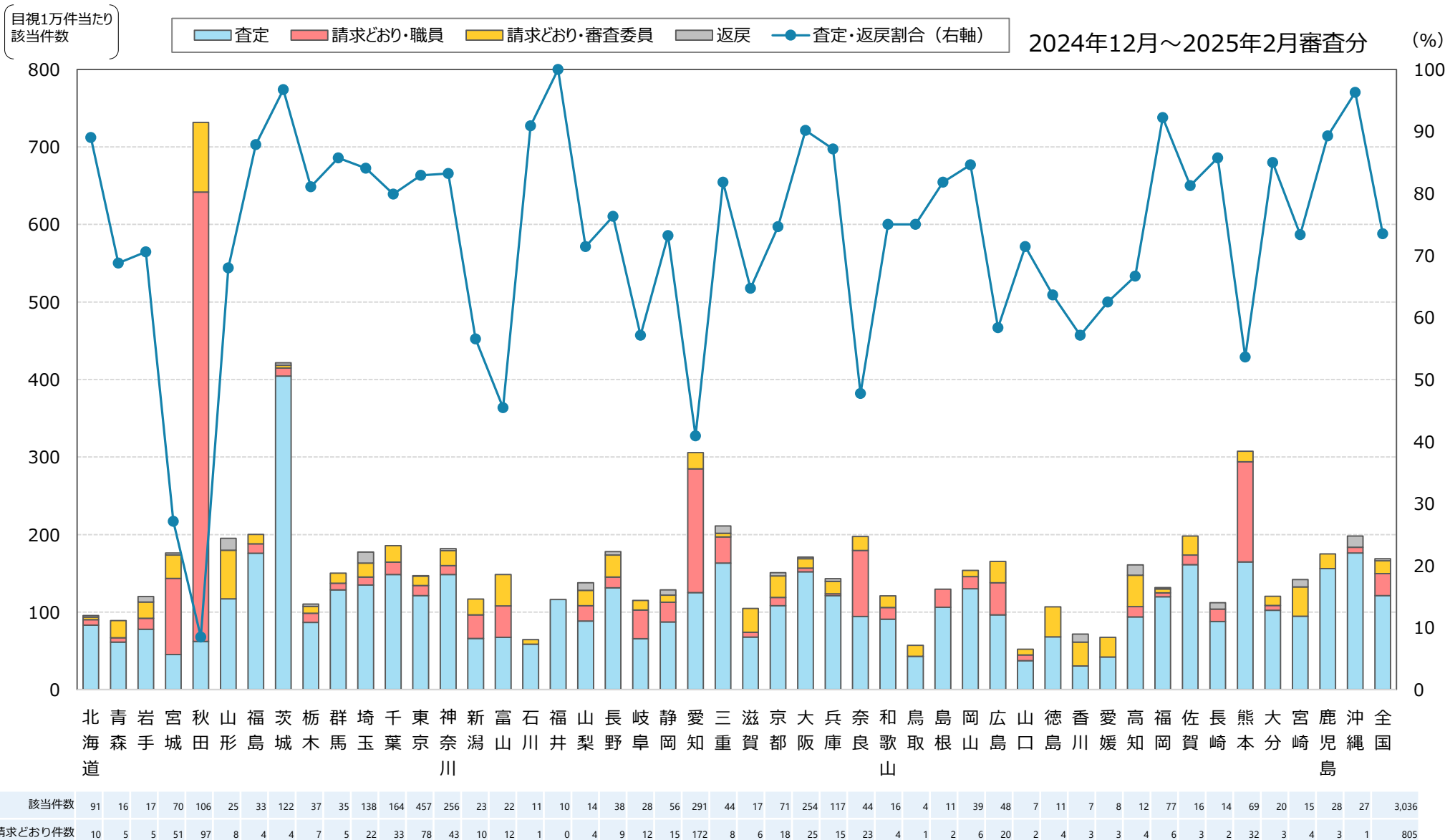
## 審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 73.48%
- 検証対象都道府県 42

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	秋田、宮城、愛知、富山、奈良、熊本、新潟、岐阜、香川、広島、愛媛、徳島、滋賀、高知、山形、青森	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	秋田、愛知、熊本、宮城、奈良、広島、富山、岐阜、三重、新潟、静岡、島根、山梨、長崎、千葉、岡山	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	秋田、山形、富山、高知、徳島、宮崎、滋賀、香川、宮城、長野、京都、広島、愛媛、佐賀、青森、千葉	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	3,036件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2,231件
検証を必要とする審査	請求どおり	805件



【該当件数】経過観察時における二次性高血圧症等がない高血圧症のみに対してレニン活性等を算定しているレセプト件数